

基本構想策定の背景・経緯

- 新城市民病院は、昭和20年の開院以来、東三河北部医療圏の住民の生命と健康を支える基幹病院として、地域の医療提供体制において重要な役割を果たしてきました。
- 現病院は、西病棟（築43年）やリハビリ病棟（築38年）等、築年数の経過により、著しい劣化が見られます。令和7年度には、院内全体の空調設備を担うボイラーのトラブルや院内各所で雨漏りが生じる等、**建物及び設備の両面において老朽化が進行しています。**
- 令和4年度には「新城市民病院の再整備に向けたあり方検討会」を開催し、移転新築案が妥当であるとする報告書が取りまとめられました。
- その結果を踏まえ、令和5年度にはパブリックコメント等を実施し、市として同年11月に再整備手法を「**移転新築案**」とすることを決定しました。令和7年度には、市民ワークショップや外部有識者から成る基本構想検討委員会等を開催し、東三河北部医療圏の将来像を見据えつつ、**地域医療を支える拠点としての役割**を果たすための第一歩として、基本構想を策定しています。

年度	経緯
平成29年度	・西病棟の耐震診断を実施し、大規模地震時に倒壊する可能性が示唆された。
令和4年度	・新城市民病院あり方検討会を開催し、全会一致で「移転新築案」が妥当であるとする報告書を取りまとめた。
令和5年度	・パブリックコメント及び有識者等からの意見聴取を経て、市として再整備手法を「移転新築案」と決定した。
令和7年度	・患者様アンケートや市民ワークショップ、職員アンケート、基本構想検討委員会、北設楽郡3町村長への説明会、東三河北部医療圏内医療機関等へのアンケートを実施。

当院を取り巻く環境

- 少子高齢化や人口減少が進み、東三河北部医療圏においても、令和32年には**人口は約3分の2に減少し、そのうち半数が高齢者**になることが予測されます。
- 2040（令和22）年問題に対応するため、医療提供体制の再構築が急務となっており、**新しい地域医療構想**では、医療機関の機能は「高齢者救急・地域急性期機能」「在宅医療等連携機能」「急性期拠点機能」等に分類され、地域の実情に応じた役割分担が求められます。
- また、人口減少が進む地域では、2次医療圏内での対応が困難となるケースが増えており、**医療圏を越えた広域連携**の重要性が高まっています。



新しい地域医療構想や医療政策に基づき

- 東三河北部医療圏における医療提供体制の強化
- 東三河南部医療圏との連携強化

を重視し、急性期から包括期、在宅医療まで切れ目のない医療体制の構築を目指した基本構想を策定。

当院の現状

		現病院（令和6年度実績）
所在		新城市字北畑32番1
敷地		敷地面積約 11,649㎡、建築面積約 5,195㎡、延べ床面積約23,847㎡
診療科		総合診療科を中心とした23診療科で構成
指定医療機関		災害拠点病院、へき地医療拠点病院、DMAT指定医療機関、救急告示病院 等
病床数		199床 ※26床休床中
入院	患者数	1日平均患者数 90.2人 延べ入院患者数 32,930人 ※うち、設楽町、東栄町、豊根村の患者割合は約18.9%
	病床利用率	45.3%（令和6年度）
外来患者数		1日平均患者数 258.6人 延べ外来患者数 62,843人 ※うち、設楽町、東栄町、豊根村の患者割合は約8.0%
救急車の受入れ件数		年間1,243件 ※新城市消防署から問い合わせのあったうち、約85.8%を受入れ

新病院整備に向けた取組み その①

- 地域住民や職員の意向を把握するため、患者様アンケートや職員アンケートを実施し、新病院の「外来」「入院」「全般」に分けて意見を聴取しました。

結果	患者様アンケート（764件）	職員アンケート（260件）	
外来	1位	・駐車台数の確保や駐車場から病院へのスムーズな通路	・駐車台数の確保や駐車場から病院へのスムーズな通路
	2位	・待ち時間表示や待ち時間短縮に向けたシステムの導入	・待ち時間表示や待ち時間短縮に向けたシステムの導入
	3位	・バリアフリーやユニバーサルデザインの外来や多機能トイレ	・バリアフリーやユニバーサルデザインの外来や多機能トイレ
入院	1位	・プライバシーが保護された病室	・治療や療養に必要なスペースを十分に確保した病室
	2位	・新興感染症の流行時でも安心して入院できる病室や設備	・自然災害に強い建物や設備
	3位	・家族の負担軽減を目的とした入院アメニティ（病衣やタオル、日常生活物品等）	・療養に適した快適な空間、照明環境
全般	1位	・救急患者の受入れ等、困った時に頼りになる病院	・病状や治療方法のわかりやすい説明があり、納得して医療が受けられる病院
	2位	・いつでも安心して気軽に利用できる病院	・いつでも安心して気軽に利用できる病院
	3位	・豊川市・豊橋市等の病院や大学病院と連携がある病院	・クリニックや介護施設等と連携し、地域医療を支える病院

新病院整備に向けた取組み その②

- 地域に必要な医療機能やサービス等について、**地域住民の意見を把握**するため、「市民ワークショップ」を全3回に分け開催しました。
- 第1回は病院説明及び院内ツアー、第2回はグループワーク、第3回はグループ意見の発表と投票を行い、市民ワークショップの重点施策を取りまとめました。

市民ワークショップの重点施策

1位	人員確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療従事者の確保に向けた魅力的な病院</li> <li>職員が働きやすく、定着する病院</li> </ul>
2位	医療情報システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療ICTの導入</li> <li>オンライン診療や予約のシステムの充実</li> <li>待ち時間の解消や呼び出しシステムの導入</li> </ul>
3位	災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害に強い建物（耐震や免震構造）</li> <li>大規模災害に対応できる設備を整備する</li> </ul>



患者様アンケートや職員アンケート、市民ワークショップ等で聴取した意見をもとに、**地域住民の声や意見を踏まえた基本構想**を策定。

新病院の目指すべき

新城市民病院基本理念

**温かい心と確かな技術で、地域住民に信頼され選ばれる病院**

新病院整備の基本方針

- 「**地域住民の命と健康を守る地域医療の中核拠点**」として、持続可能で質の高い医療を提供し、地域社会とともに歩む病院を目指します。

方針	具体的取り組み例
(1) 地域医療の中核病院としての役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者救急・地域急性期機能の担保</li> <li>急性期拠点病院からの下り搬送の受入れ強化</li> </ul>
(2) 災害拠点病院としての役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時においても地域医療を担える病院整備</li> <li>平時から災害時に備えた体制を構築</li> </ul>
(3) 地域連携・地域包括ケアの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療機関や介護保険施設、在宅医療機関等との連携強化・協働</li> </ul>
(4) 医療機能の再構築と重点化	<ul style="list-style-type: none"> <li>急性期から包括期までの一貫した医療提供体制を整備</li> <li>在宅復帰や社会復帰を支援する体制を強化</li> </ul>
(5) 快適な入院環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者・家族に優しい入院環境の整備</li> <li>患者・家族支援体制の強化</li> </ul>
(6) 快適な外来環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>快適で安全な外来環境の整備</li> <li>外来受診支援体制の充実</li> </ul>
(7) 持続可能な経営基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略の強化</li> <li>施設戦略の最適化</li> </ul>
(8) 職員から選ばれる職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい環境の構築</li> <li>教育・研修機能の充実</li> </ul>
(9) 診療支援システムと先端技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療DXによる診療・看護・事務業務の効率化</li> </ul>

新病院の担うべき機能

5疾病6事業への対応

		対応方針
5 疾 病	がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術及び化学療法の継続</li> <li>専門的な治療が必要な場合には周辺地域の医療機関との連携</li> </ul>
	脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣医療機関と連携</li> <li>包括期リハビリ及び在宅復帰支援</li> </ul>
	心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣医療機関と連携</li> <li>包括期における治療や生活支援</li> </ul>
	糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖尿病医療体制の継続</li> <li>生活習慣の見直し及び血糖コントロールを目的とした「包括期支援入院」を実施</li> </ul>
	精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来診療を中心とした対応</li> <li>入院加療が必要な場合には、近隣の医療機関と連携</li> </ul>
6 事 業	救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者救急・地域急性期機能」を担い、救急患者の受入れの継続</li> <li>専門的な治療が必要な心疾患や脳卒中の急性期患者は、近隣の医療機関と連携</li> </ul>
	災害医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害拠点病院としての役割</li> <li>平時から体制整備及び非常時に備えた医療提供体制の構築</li> </ul>
	へき地医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療所等への医師派遣の継続</li> <li>診療所等から緊急入院患者の受入れる等、後方支援体制の充実</li> </ul>
	周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的体制を要する医療であることを踏まえ、他の医療機関との連携を前提とした対応</li> </ul>
	小児医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来診療を中心として対応</li> <li>入院加療が必要な場合には、近隣の医療機関と連携</li> </ul>
	新興感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>平時から衛生資材の備蓄及び感染対策体制の整備</li> <li>個室整備、ゾーニング及び動線分離</li> </ul>

新病院の診療機能

- 総合診療科を中心**とした診療体制を継続し、幅広い疾病に対応します。また、健診センターや人工透析センターの機能についても、新病院において引き続き確保します。地域住民の高齢化率の上昇が見込まれる中、高齢者に特化した医療体制の整備や強化を検討するとともに、医師や専門人材の育成を推進します。

新病院の病床数

- 現在、病床利用率は45.3%であり、**半数以上が空床**の状況です。また、**建設費の高騰**を受け、費用の圧縮や経営の健全性が求められています。
- 新病院は**100～120床規模での整備**を検討していますが、医療需要の変化や担うべき役割、医療政策等を踏まえ、基本計画段階で最終決定する予定です。

新病院の整備概要

移転候補地

- 現在、災害時のアクセス性や第1次緊急輸送道路への近接性、都市計画との整合性等を踏まえ、複数の移転候補地について検討を進めています。

整備規模

- 新病院の延床面積は、7,500～9,600㎡（病床数100～120床×75～80㎡/床）を想定していますが、基本計画段階で詳細を検討する予定です。